

公印省略

22 病防第 922 号の 4
平成 23 年 3 月 1 日

各関係機関団体の長
各病虫害防除員 } 殿

福岡県病虫害防除所長

平成 22 年度病虫害発生予察技術情報第 4 号について

このことについて、病虫害発生予察技術情報第 4 号を発表したので、送付します。

技術情報第 4 号

1 病虫害名 ホウレンソウベと病 *Peronospora effusa* (Greville) Cesati

2 作物名 ホウレンソウ

3 発生経過

平成 23 年 1 月に、みやこ町でホウレンソウベと病レース 1~7 の抵抗性品種に本病が発生していると、京築普及指導センターから連絡があった。発病葉から孢子等を検鏡したところ、本病菌が確認された。

本病レース 1~7 の抵抗性品種で発病が確認されたことから、本県で未確認のレースの可能性が高い。

4 病 徴

レースによる病徴の違いはなく、下葉の表面に、健全部との境界線がはっきりしない黄白色の小斑点を生じる。その後、拡大して淡黄色または淡紅色の不正円形の病斑となり、葉裏に灰紫色粉状のかび（分生子）を形成する（写真 1, 2）。さらに被害がすすむと葉の大部分が淡黄色となり、やがて枯死する。

5 伝染方法

本菌の分生子は 7~15℃で形成されやすく、風などにより空気伝染する。また、被害株で越冬し、種子伝染も行う。

6 防除対策

- (1) 発病しやすい時期（3～5月頃および9月下旬～1月頃）に作付する場合は、必ず予防散布を実施する。
- (2) 発病を認めた場合は病葉を取り除き、本病に対して有効な薬剤を下葉や葉裏までかかるよう丁寧に散布する。また、病原性のレースが異なっても殺菌剤の防除効果に影響しないことが多いため、従来の殺菌剤で防除効果が期待できる。
- (3) 平均気温 8～18℃で多湿が続くと多発する傾向があるため、ほ場の排水や通風、採光を良好にする。また、葉の繁茂は発生を助長するため、多肥、厚播きを避ける。
- (4) 発病株をほ場に放置すると次作の伝染源となるため、発病株は速やかにほ場外に持ち出し処分する。



写真1：葉裏に形成された
灰紫色粉状のかび



写真2：べと病菌の分生子と分生子柄